



お囃子大賞と風流賞を受賞した鉄山町内会の山車「玉獅子」。雨の中でも、受け継がれてきた「とよま囃子」が響き渡り、訪れた人たちを楽しませていました。



祭りには子どもたちも参加。伝統は受け継がれていきます



岩手県住田町五葉地区の「五葉山火縄銃鉄砲隊」による一斉射撃の演武。火縄銃の音に見物の人たちもびっくり



渋江町内会は「八重の桜」をテーマにしたみこしで金賞を受賞



伝統芸能伝承館「森舞台」で演能された「羽衣」。薪の燃える音や虫の声が聞こえ、暗闇に浮かび上がる舞台は、まさに幽玄の世界そのものです



登米能を今に伝える登米謡曲会



15日に開催された本まつり。スタートを飾ったのは、とよま囃子保存会による勇壮な「木遣(きぢ)り・三本締め」。各町内会の皆さんも参加し、曇天を吹き飛ばすような大迫力の合唱となりました



月の世界や三保の松原の春景色を眺めながら「駿河の舞」を舞う天人

『登米能』と宵祭り  
 とよま  
 仙台藩祖である伊達政宗公は、能楽史上に大きな影響を与えるほど能を愛し、歴代藩主も特異な流派である金春(こんばる)大蔵流(後に大倉流)を編み出すなど、能を重んじてきました。伊達一門の登米伊達家ではその大倉流が取り入れられ、これが現在継承されている「登米能」の原型です。  
 明治41年に登米能の伝承を目指して発足した登米謡曲会により、その後のたび重なる衰退の危機を乗り越え、昭和45年の地元八幡神社への奉納能楽の復活で再生。以来、秋まつりの宵祭りで「新能」として演能しています。  
 登米謡曲会は、フロの域にまで届く高いレベルで伝統を受け継いでおり、アマチュアだけで演能できるのは宮城県で唯一で、東北地方でも貴重な存在になっています。